

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	えつぼJr.		
○保護者評価実施期間	令和7年1月21日		令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	令和7年1月21日		令和7年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的な資格を持ったスタッフが常駐し、質の高い療育を行っていること	教職・保育経験年数20年以上のスタッフを中心に、お子様の学習面、生活面における療育の充実を図っている。 1月から作業療法士も常駐し、専門的支援の立場からお子様、保護者様にアドバイスをしている。	「学習タイム」は学校の宿題だけに終わらず、お子様一人ひとりが躓いている箇所を遡って見直したり、得意な箇所をより伸ばしたりするように、個に応じた「えつぼプリント」を作成し深めていく。
2	「ソーシャルスキルトレーニング」を通して、お子様の社会性・コミュニケーション能力を育てていること	毎日の療育の中で起こる問題・トラブルをタイムリーに取り上げ、皆で考えていくSSTを心がけている。 その時期に合わせたテーマでのSSTも、定期的に行っている。	SSTの年間計画を見直し、更に充実した内容を盛り込んだものにしていく。
3	豊富な地域資源を生かした「体験活動」を取り入れていること	河和田地区は、環境面（地区体育館、コミュニティセンター等）、人材面（伝統工芸、薬学博士、大学院生等）といった地域資源が豊富で、皆さんに協力頂いて充実した体験活動を行っている。	本年度は、開業間もなく未だ手探り状態だったため、地域資源を更に発掘し、体験活動の内容もブラッシュアップしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専用の送迎車が無いこと	現状では専用の送迎車が無く、スタッフの自家用車を送迎車として利用している。ただ、支援会議や県市主催の会合などがある場合、（時間が重なると）送迎が難しくなることがある。	現在、赤い羽根共同募金様のご協力（使途選択募金）を得て、送迎車の購入が出来るよう皆さんにお願いしている。
2	事業所自体が手狭であること	国の定める一人あたりの面積基準はクリアしているが、平屋建てのため指導室は決して広くはない。	賃貸物件のため、増築などは難しいが、今後補助金などを利用して、前庭にプレハブなどのスペースを作ったり、積極的に室外や地域資源を使った活動を取り入れたりしていきたい。
3	開かれた事業所であること	保護者会といった保護者同士の横のつながりや、事業所以外の他地域の子どもと活動する機会が無かった。	3月末に「えつぼ発表会」を行い、これまでお世話になった地域の方、保護者様をお呼びして、発表会を行う。その際、保護者同士の交流の場をつくる予定である。また、次年度は他の放課後等デイとも交流の機会をつくってきたい。